

夕々日七十月四

常盤毎日新聞

定価 一月五拾五圓 三ヶ月一拾五圓 半年二拾五圓 一年五拾圓  
代金引換 郵便振替 銀行振込 口座振替  
発行所 東京都千代田区千代田三丁目一番地  
電話 六三〇三 六三〇四 六三〇五  
印刷所 常盤印刷株式会社

白虎隊と

なよ竹の神 (6)

安倍 季雄

足手まとひの子供をつれては思ふやうに働きがでない。気がつきましてくの子に向ひ「お父様もお母様も追つつけ後から直ぐに参るほどに、こゝで死んでくれないかい」と申しますと幼きくに子はさゝわげよく合掌して潔く母の手にかゝつて死にました。

老母のきく子はそれを見て「おゝきついで、九つの子供に一人旅はさびしからう。よし、お婆さんも一緒に行きませう。あさ子や介錯を頼みますよ。」と申しますと、あさ子はハラ／＼

香水を使ふ時には必ず振つて使ふこと、静止して置く間に香油分とアルコール分とが分離してゐるから

と落涙し「たとひ、いかやうの事がありましても其の事だけは御免下さい。お母様は一刻も早くどうぞ此の場をお逃げ下さるやう」と申しま

た。きく子は以ての外の立腹で、「侍の妻ともあらう者が母の介錯がでさんでどうします。そのやうな女々しい事とは之からお城にかけつけた處で何の御役にたちませう。善左衛門に代つて此の母が今日限りきつぱり離縁を致します」と叱りつけたので、あさ子は「恐れ入りました。それでは仰せに従ひます」と涙をのんで介錯し、其の首を丁寧片袖に包んで下男に命じ、くに子の首と一緒に菩提寺に葬らせ自分は緑の黒髪をブツツリときつて男装となり、敵陣の下を潜つてお城にかけつけ夫と共に最後まで防戦に力めました。

その他、和田甚吾の母みわ子と妻なかつか子が介錯する人がない為め猛火の中に飛込んだ話や、遙かに鶴ヶ城を拜し鮮血の中に笑つて死んだ内藤介右衛門、上田八郎右衛門の一族十四人、病める我兒を勵まして戦場に送り、白衣をつけて自刃した柴五郎大將の母堂みね子の立派な最後、奉公人や身分の軽い家來共を逃がして心靜かに姑の介錯をなし、ゆや子、すが子と共に猛火の中に自刃した沼津出雲の母道子(五十一)の落着きは

らつた態度、一家七人、枕をならべて潔く節に殉じた永井左京の家族、十九歳の身を以て城内で後の新島襄氏の夫人等と共に藩主の姫君を守護し遂に敵陣の中つて倒れながら、自分の苦痛は一言も漏さず「御姫様は御無事か」とたづね、姫君からの御見舞ひに對し「有難う存じます」

と厚く御禮をのべ、従容として眼をつぶつた山川大藏の妻とせ子の最後など、書けば限りがないから略しますが、逸する事ができないのは、妙齡の婦人ばかりで一隊を組織し砲煙雨の下をくぐつて、屢々敵の膽を寒からしめた中野竹子、水鳥菊子等の目ざましき奮戦ぶりでありませう。

見習生募集  
十四才より十六才迄

高橋時計店  
平町二丁目  
西村屋薬店  
トナリ  
トナリ

店主	か	を	店
運	れ	運	主
行	れ	行	か
員	る	る	店
	食	食	員
	堂	堂	
	茶	茶	
	場	場	
	酒	酒	
	場	場	
	正	正	
	シ	シ	
	イ	イ	
	酒	酒	
	場	場	
平・田町			
レストサロシ			
電二五三番			

流行パラソル陳列會

今年には斷然新生地による新柄一本一本味あいの富田獨特と自慢の出来得る品のみ仕入に成功致しました。全種類決作品のキャンパレートで御座います。特に二重張パラソルのお安い事は驚くばかりで御座います。只今が最良の御いらび時と存じます。店內總陳列

大黒屋  
平 三  
電 116

春のシヨール賣出し

- 無地シヨールセット ..... 九十錢より
- 紋シヨールセット ..... 二四〇〇〇
- ア ..... 三四〇〇〇
- 地 ..... 三〇〇〇〇

大黒屋  
平 三  
電 116

流線型入車

お持ち兼ねの卅五年式流線型第一車が入車致しました。是非御試乗の程願ひ上げます  
電話六四〇番  
尼子タクシー

東北商行  
電話六五三番

石炭一〇〇パーセント

値下げ!  
暖氣二向ヒダンゼン  
一等塊 正味五〇斤入一俵 金貳拾八錢  
特塊同 金參拾五錢  
品質が優良 デナケレバ 値段バカリ安クトモ  
目方が正確 結局高イモノニナリ  
此の点は當店を絶對に御信用願ひます  
市内は一俵より配達致します

電話 三七番  
阿部石炭商店

# 警察部長の手から

## 優良消防手を表彰

### 其數百四十數名に及ぶ

### 十九日の聯合消防檢閲

既報來る十九日午前九時より警中グラウンドで行はれる平署管内四町十八ヶ村の聯合消防檢閲には畠田警察部長が臨席し型の如く機器器具の點檢、練練等あつて後永年勤続者として小頭拜命以來廿年勤続の平消防組小頭鈴木長三郎氏及び消防手三十三名勤続の内郷鈴木重輝好間根内泰明の三氏外左記優良消防手百四十一名が表彰されると

- (平)鈴木長三郎 鈴木重輝 根内泰明 柳井金治 松崎鐵太郎 蛭田清 菊地竹雄 木村勝右衛門 小野貞吉 古田部義雄 (湯本)鯨岡賢司 國井實志 尾崎義衛 飯淵喜一郎 菅波正雄 古山可光 村越八郎(江名)中田貞四郎 小松敬一郎 荒木義夫 吉田金雄 佐藤真一 富田行保 伊藤之明(平窪) 黒木國一 中泉勇夫 永島正義 木田源六 松本信由 相田政義 岡部清 小川定一(夏井)坂本善三郎 若松時夫 木田隆直 猪狩龜一 鶴沼子之松 鹽吉定 高木鐵男(三坂) 山下喜代美 藁谷友好

- 馬目泰市 野木朝吉 大平次郎 大越藤司 鈴木座平 中村清春(上小川) 鈴木義治 草野定好 高木三郎(下小川)箱崎重雄 萩野重 鈴木金重 高木長助 吉田一郎(高久) 鈴木富雄 猪狩與作 片寄甚太郎 鈴木又一郎 國井重信 鈴木一平(玉川) 長瀬彰義 齊藤晃若松岩雄 箱崎一美 柳井英一郎(赤井)柴崎繁夫 柏原政治 鈴木和光 若松清松 鈴木清丸 若松一郎(好間)鈴木重光 山野季松 高木金之助 鈴木喜代一 木田信 金成義雄 木田修枝 遠藤信彌 柴野好信(豊間)山野邊忠八 鈴木鶴吉 大平兼松 鈴木新一 松本保永山嘉市(警崎)中野信行 織田信一 磯上左京 大井川忠吾 大井川健吉 大井川功 志賀登 鈴木源一 最上一(澤渡)三瓶 菊治 田子辰雄 草野育造 齋藤孫市(永戸)柴崎彌三郎 松崎乙丸 會津義雄 戸枝豊次 藁谷益雄(三坂)吉田仲次 吾妻織之助 大平菊治 大谷

### 絶讃を受けた

#### 第一校消防隊

##### 大人も及ばぬ練作振

##### 檢閲を前に猛練習

平第一小學校の少年消防隊は來る十九日警中グラウンドにて舉行される平署管内春期消防檢閲に参加すべく今十七日午前九時より校庭にて教練、機器器具の練練等の豫行演習を行つた、因に

### 農事の功勞者を

#### けふ郡農會が表彰

本郡農會は本十七日午前九時より園体事務所樓上に於いて郡下の農事功勞者として平町農會長山崎與三郎氏外二十五名及び優良組合として飯野村谷川瀬實行組合外十七組合の表彰式を舉行し午後一時から松ヶ岡公園で觀櫻會を開いた

### 青年學校

#### 合同協議

##### 來月二日に

青年學校制度施行について教育方針の徹底と施行細則

を打合せの爲縣主催にて各部毎に各市町村長併しに補習學校長參加の青年學校合同協議會を開催する事既記

### 記念デーに

#### 平局を公開

平郵便局は來る廿日の遞信記念デー當日一般者の爲に午前九時から午後四時迄局内を公開する事になつたが局内には各種事業統計圖表事業參考品及び局員の手藝品を陳列する外電話の交換實況を參觀に供し係員が親しく説明に當ると

### 勿來農會役員

町長(幹事)赤津仁之助 外七名

町農會は昨十六日午前十時より町役場で總會を開き役員改選を行つた結果左の如く決定 (會長)大平陸四郎(副會長)榎田龜吉(顧問)赤津

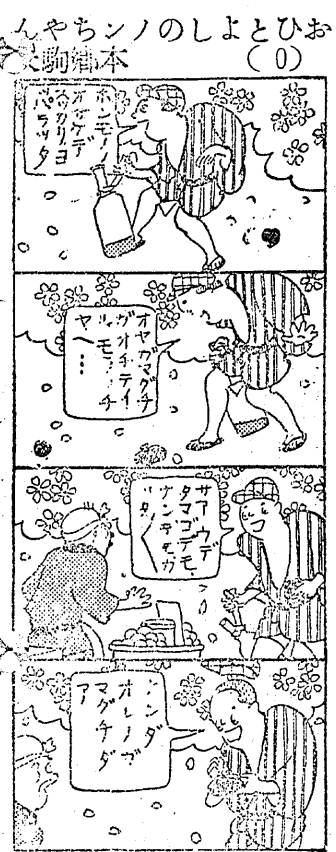
### 社告

明日縣社子銚倉神社祭禮に付き従業員慰安の爲め休刊仕り候間御願承願上候

四月十七日

常磐毎日新聞社

### 愛讀者各位



### 看護婦急派

の求めに應じます

平町南町 平看護婦會 電話三〇七

## 美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

印刷の御用は設備完全の「常磐毎日」電話六三〇

# 火の粉を浴びつゝ

## 酌婦・裸體で防火

### 遂に他の延焼を免る

### 勇敢なモト女を表彰

湯本町字向田四四料理店佐藤ヤス方抱酌婦細谷モト(九)さんは本月十四日午前一時半頃隣家の魚商佐藤直吉方の庇から盛んに火を吹いて居るのを発見附近に急を知らせる一方自分の衣類を脱いで發火個所を叩き乍ら防火に努め後から駆け付けた消防組員に協力して漸く消止めたがモトさんの働きで延焼を免れた同女の勇

## 磐女遠足

### 勿來方面へ

磐城高等女學校では来る廿日同校生徒の春季遠足を勿來方面に向つて行ふと

# 花雲りの

## お祭り

### けふから全町

### 歡樂のウツ中に

平全町舉げての祭典——縣社子鐵倉神社例祭は本十七日午前九時花雲りのもとに縣の供進使を迎へ長閑な太鼓の音に祭り氣分を盛りつゝ市内各學校生徒六千名の參拜が續々押掛け餘興場の花柳舞踊團のレヂュー、漫談、奇術等賑々しく演ぜられ材木町が奉納餘興として造つた大山車は午後から全

## 機關車が

### 逆行して

### 驛員不慮の死

内郷村驛驛員志賀繁次郎(五)は昨十六日午後一時半頃構内下り線路を横断せんとした際逆行して來た機關車に刎ね飛され即死した

## 未決に拘留された

### 日數補償さる

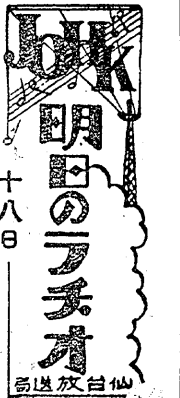
### 無罪の鈴木氏

### 注目の抗告遂に成立

石城郡玉川村字島農鈴木一男(三)氏は私文書偽造行使並びに窃盜罪として平區の公判に附されたが無罪の判決を言渡されたので早速刑事補償法による補償請求を同裁判所に申出でた處却下となつたので福島地方裁判所に抗告を申立て本縣に於ける補償法最初の抗告事件として一般から注目されてゐたが昨十六日中村才判長から未決拘留廿七日間に對し補償金廿七圓を交付すると言ふ判決を言渡され同氏の抗告は遂に成立した

## 片倉女工受賞

本月廿日郡山蠶業取締所で舉行



天 今晩も明日も北西の風天氣好くなる

## 今晩の部

- 后六〇〇 子供の時間 名作物語「小公子」(二)東京放送児童研究會
- 后六二五 基礎英語講座 (五)岡倉由三郎
- 后七三〇 座談會「少年保護と善導」鈴木賢一郎
- 后八〇〇 獨唱二重唱
- 四重唱「ベルシヤの花園」レマン曲マリアトル他

## 明日の部

- 后八三〇 歌謠曲 福島縣梁川町白河町連中
- 后八四五 長唄「賤機帯」芳村伊四郎他
- 后九一〇 連續ラヂオ小説「白旗姫物語」(三)汐見洋他
- 后九三〇 時報 ニュー氣象通報 番組預告
- 前六、三〇 基礎獨演座 (五)武内大造
- 前七〇一 朝の修養「幼學綱要」(七)廉潔 文學博士深作安文
- 前一一〇三〇 婦人講座「春から夏への洋縫」(八)筒井光庶
- 后一〇〇五 輕音樂 コロナ・オーケストラ
- 后二〇〇〇 小學生の時間 (尋四)理科「春の野山」一唱歌 新訂尋常小學唱隊 二お話 天野雄彦
- 后二四〇〇 小學生の時間 (尋五)國史「建國物語」一建國行進歌 東京市愛宕高等小學校兒童 二お

## 干魚籠に

### 十圓札

### 亭主思ひの女房

### 罰金二十圓

双葉郡川内村大字下川内字坂之内菊地キヨ(七)は去る一月中夫圓八(三)が文書偽造の嫌疑で同郡上岡村駐在所巡查佐藤嘉作氏の取調べをうけた際罪が軽くなるやうにと同巡查へ干魚籠の中へ十圓札を入れて贈り同巡查より告發され今十七日平區裁判所より贈賄罪として略式罰金貳拾圓を言渡された

## 矢庭に爆發

### 土工二名重傷

### ダイ爆破最中の椿事

永戸村大字下永井字中根地内小玉川第二發電所水路工事場で去る十五日午前九時頃隧道開鑿作業中の双葉郡木戸村生れ土工小野萬治(三)双葉郡木戸村生れ佐藤

## 親の知らぬ間

### 娘が女給

### 平署へ説諭願

好間村大字上好間字空山カフエ一旭屋専瀬讓義之助方女給秋田縣谷地町兒玉クサ長女ヤイ子(七)は去月十日實家を飛出し前記カフエ一に前借六十五圓で住込んだのを最近實家で發見し昨十六日母親がカフエ一を訪ね親の承諾がないのだからと連れ歸らうとした處抱主が承知しないので平署人事相談所に説諭方を願出た

## 天野雄彦

- 后六〇〇 子供の時間 名作物語 東京放送児童研究會
- 后六二五 講演「東北凶作の史的考察」盛田達三
- 后七三〇 講演「熱帯地方に於ける人間の生活」熱帯病研究所長醫學博士醫學博士桂田富士郎
- 后八〇〇 シヤム歌劇
- 后八二〇 尺八と俗曲 加藤澄水
- 后八四〇 掛合義太夫「壺坂靈驗記」竹本勇花外
- 后九一〇 連續ラヂオ小説「淡川合戦秘史」汐見洋外

## 平修養委員會

平修養委員會は来る十九日午後三時より平第一小學校に開くと

## 中堅農民入所

石城中堅農民講習會本年度入所生百二十名の入所式は本十七日午前十一時から平町團體事務所樓上で行はれた

## 平職業紹介所報告

- 求人を求める方
  - △水汲夫 五十迄 月五—六圓
  - △小店員 十五—六才 高卒
  - △運搬夫 二十以上 日給七十錢
  - △小守 五十前後 月四—五圓
  - △女中 二十二迄 尋卒 月十圓
- 回職を求める方
  - △水汲夫 二十六才 高卒
  - △事務員 十八才 商業三修
  - △職工 二十才 中卒
  - △土工 十九才 高卒



# 明治太平記

(上段及上流)

(作) 寺島征史  
(監) 野口

## 第一〇二回

### 間牒往來 (7)

「なら、船へ戻れそれとも訊問所へ一緒に参るか」

「参りやせう」

「何？」

「いつその事傳馬町へお供をさせようか」

「牢屋か」

「へえ、ついでに雲井さんを盗み出してはどんなもんです、手を貸しますせう」

船頭はよゆうしやくとして、肩を並べて歩いて

「兎に角石垣のそこ迄戻れものはそれから本格に相談ぢや」

煙はぐいと船頭の手を引いた

「痛い！おツそろしい力があるんですね、おう痛い」

船頭は大げうに顔をしかめて見せた

「参れ」

「だつて、船へ引き戻されてさんざん殺しにされるんぢや嫌ですよ」

「そんなことアない、唯おのれは誰に頼れて吾々の密談を盗まうとしたンぢや、それを聞けば放つてやつてもよいのぢや、ア石垣のところまで参れ」

「ぢや旦那、それを吐いてしまふと許してくれらるんでんね」

「さうぢや」

「それだと……」

ひよいと横に飛んだ

「おのれッ」

つていさゝか躊躇された  
「人殺しだア……」  
船頭は叫びながらどんどんかけてゆく

「おのれ！おのれ！」  
いまは前後左右を顧慮するひまもなく、いつさんに船頭の後を追ふた

と、横あひの暗闇から忽ねんとして三つ四つの黒影があらはれ船頭の後を追ふ

煙の前に立ふさがつた  
「どけい！曲者を捕へるのぢや」

が、人影は少數ながら人がきとなつた



襲ひかゝらうとする船頭はもう船板橋の方へ數間飛んでゐる

「止まれ」

が、船頭は駈ながら聲をしばつて叫んだ

「人殺し……」

「おう」

いやなことを叫ぶ奴と思

してをる、煙はカツとなつた

「おのれ」  
襲ひかゝらうとする人影はバツとちり立止まるとまた一列に人垣をつくる

「何ものだ、巡察か」  
煙は立止まつてあはれい月光をすかして人影をたしかめやうとした

「白浪だ」  
「なに！」

「明治の白浪五人男だ」  
「白浪、ぬすつとだな」  
「國を盗もうといふ大盗だ何故、いまの男をかばふのぢや白浪なら白浪らしく俺の仕事の邪魔をせずに町家の土蔵でも荒せどけい」

煙は再び人垣を破らうとした、人影はバツと散りまた集つてきて

「ところが、いま、てめえの手中をのがれた男、あれもわれわれの仲間の一人なんだ」

「なに！」

米國製剝皮膚病良藥

レメドール

子宮あたゝめぐすり

宮温湯

丹波博士創製セキドメ

たんぼあめ

靈藥ムテキ

平町古鍛冶町一

阿康藥舗

縣社ノ下 電話四四番

## 阿康藥舗

縣社ノ下 電話四四番

## ランドセル

・全部玉付の石板が樂に入ります。

- 大型……………095錢
- 學修院型……………155
- 〃 〃……………200
- 〃 〃……………300
- 〃 〃……………550

セビヤと黒各種

カバンとポーシ

手提カバン

・補助運動靴景品付賣出中。

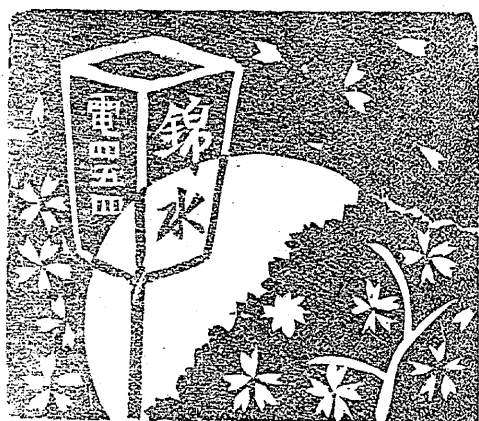
に  
ツルヤ

午四・電一四〇

## 御花見

の御催し

折詰、辨當の  
少に不拘御用命  
の程を御待して  
居ります



御花見の折詰は！

春に花は必然です

そして酒あつての櫻です

然も酒は魚清の折詰によつて  
百パーセント天の美縁となるです

御花見には是非御用命の程を

◎近日中みつ豆はじめます

平二警察署裏通り

魚清食堂

電話六三三